

みやぎ 技能 KENTEI NEWS

—第 8 号—
令和 6 年 2 月

宮城県は、技能向上に挑戦する会社と若者を応援します。

株式会社竜門園 ^{みかみ よしき} 見上 愛輝さん (28歳)

1 級造園技能士 (造園工事作業) 令和 3 年度合格



受検するきっかけ

私は宮城県農業高校の園芸科を卒業しており、技能士という資格があることは知っていました。入社後に造園職種の 2 級技能士資格を取得したらどうかと言われ、技能検定 2 級を受検しました。

入社当時、「技能士の資格を持って一端になれる」と言われていたこともあり、2 級を取得後すぐに 1 級取得を目指しました。

合格に向けて取り組んだこと

2 級を受検するときは、技能検定の受検が初めてで何もわからない状態だったので、先輩方にいろいろと教えてもらっていましたが、1 級を受検するときには、仕事もだいぶ覚えてきた時期でもあったので、作業をしている先輩のやり方や手順を見て覚えました。実技試験の練習中は、時間短縮に繋げるための手法や、不得意部分をリカバリーするため、いかにして得意部分を伸ばすか、そして、得意部分を活かして時間をかけずにきれいに仕上げるためには

どうしたらよいか、ということを考えていました。

受検合格に向けてのポイントは、日頃行っていることを繰り返し、いかに集中力を切らさず取り組むことができるかだと思います。また、造園職種に関しては、葉を見て木の名前を答えるなどの要素試験をクリアすることが重要で、剪定した枝を持ち帰って会社が用意した枝と見比べたり、木の枝や葉、芽の出方を見極めるような練習をしていました。細かい箇所の見極め方など、わからない点は先輩方から教えてもらいました。

技能検定受検を通して得たこと

技能士の資格は現場で作業する上で自信に繋がります。現場を任される立場にもなってきたので、先輩におんぶに抱っこではなく、自分で現場を管理しなければならない立場として、どのように作業を進めながら仕上げていくか、この仕上がりでは技能検定の実技試験だったら不合格になるからダメだ、という考えを持つようになりました。また、お客様とのやり取りでも、

以前はお客様の要望を聞いてそれに応えるだけだったのが、今では「今後を見据えてこのようにしたほうがいい」「これでは管理が大変だからこうしてみ



かどうか」といった提案ができるようになりました。

こういった考え方や提案の仕方の変化は、技能検定を経験して学び得たものだと思います。

今後の目標

庭を造る上で、お客様の中には「お任せします」という方もいらっしゃいます。こうした注文を受けた場合、どういうところを重点的に考えながら進めていくかを社長に相談した上で、お客様に「これはどうか」というご提案をしながら進めています。技能士の資格を取得した今でも日々勉強です。

まだまだ未熟な部分はありますが、今後も技能士という資格を生かし、謙虚な気持ちを持ちながら常に挑んでいきたいと思っています。

事業者の声：代表取締役 齋藤健さん

社員自身の技術向上のために技能検定の受検を推奨しています。また、技能士という資格は本人の自信にも繋がりますし、対外的にも認めていただける資格です。関係団体が主催している講習会の参加費用を会社負担としたり、合格した社員には資格手当を支給するなどして、さらなるレベルアップを促しています。

技能検定は、和の要素を多く含んだ庭を造ることがメインである反面、今は洋風の庭を望まれるお客様が多く、経験を積むための物件が少ないこと、また、実際の現場と実技試験の作業工程には多少の差異があり、試験用の作業工程を覚えなければならないという課題があります。

経験で補えない部分を、技能検定を受検する社員は、終業後に会社の敷地内で、実技試験の規定時間と同じ時間を設定して練習に励み、それを見て先輩方が助言・指導を行っています。受検者は、「規定時間の半分経過時点で何割が完成できているように」と目標を定めて練習を重ねています。

造園職種の試験は規定の時間内に多岐にわたる作業をこなさなければなりません。こうした経験が財産となり、その後の仕事にどう生かしていくのか、ということが技能検定の大きな意義のひとつだと考えます。



お客様からの要望を設計図に落とし込み、方向性を決めて計画を立てていくというのは、やはり根底に技術があるからできるものです。そこには技能士の資格が大きく関わっており、資格という土台があるからこそお客様に対しご提案ができたり、議論ができるものだと思います。

一人でも多くの社員が経験を積み、次のステップに進めるよう、今後も会社として支援を継続しながら技能士の資格取得を進めていきたいと思っています。

株式会社竜門園
昭和59年11月設立
従業員 21名
一級造園技能士 13名
二級造園技能士 2名
ほか、有資格者が多数在籍
HP <https://ryumonon.co.jp/>

厚生労働省

技のとびら
技能検定制度等に係るポータルサイト

技能検定ってなに？技能士ってどういう人たち？
どんな職種があるの？

「技のとびら」には技能検定制度や技能士紹介、試験日程など、様々な情報が掲載されています。
ぜひ一度、のぞいてみてください！



左：代表取締役 白石彰博さん 右：高橋光さん

家具製作技能士として こんな仕事をしています

一点物のオーダーメイド家具を、図面を受け取ってから完成まで、手加工や機械加工により製作しています。一人で最初から最後まで製作を担当できるところに魅力を感じ、この職場を選びました。
今はオフィスや商業施設用のカウンターを製作しています。

受検するきっかけ

家具を製作する中で、手加工での作業の必要性を感じたことが一つの理由です。ただ、仕事で手加工を必要とする機会が少なく、仕事をしながら技術を身につけるには時間がかかってしまうため、技能検定受検に取り組むことで、基礎から学び、かつ早く技術を身につけることができました。

合格に向けて取り組んだこと

仕事と実技練習を両立する上でうまく時間を作るため、入社後、毎日朝のうちに刃物の調整をしていました。また、朝はベテランの職人さんたちも早く出勤するので、木材の加工の仕方を教わり、終業後に、朝教えてもらったことの振り返りをしながら実技の練習をするという流れの繰り返しでした。

試験に向けて本格的に実技の練習に取り組んでいた期間は、会社や周囲の方々からも手厚いサポートをいただきました。会社主催の講習会で日頃の疑問を確認したり、試験が近くなつてからは仕事も配慮いただき、練習に集中することができたので、しっかり準備を整えて試験に臨むことができました。

今後の目標

技能検定の受検は自信に繋がります。手加工で行う箇所を自分の手で自信を持って加工できる、そこが家具の仕上がりや精度に関わってくると思います。

今後は一級取得を目標に、また、手加工だけでなく、機械加工についても勉強していきたいと思っています。



事業者の声：代表取締役 白石彰博さん

家具製作は道具を使えるようになるまでが大変です。道具の作り方から学び、そこから少しずつレベルアップして、自分自身の技術を磨くための一つの目標として技能検定があります。仕事をしながら実技試験の練習を行うことは大変ですが、弊社主催で同業の外部の方も参加できる講習会を開催したり、検定合格者に資格手当を支給するなどの支援を行っています。技能士という資格を多くの方に取得してもらうために、環境と場所を提供することが私の仕事だと思っています。

会社紹介

社名：有限会社白石木工
設立：平成元年7月
所在地：黒川郡大衡村大衡字北原30-1
電話：022-393-7380
HP：<https://www.s-woodworks.com/>





受検するきっかけ

部活動で機械技術部に所属しており、「旋盤」、「フライス盤」、「CAD」、「溶接」、「鍛造」の5つの班のうち、主にCAD班で活動しています。

将来は「CAD」を使った仕事に就きたいと考えており、進路実現に向けて技能を向上させるためにチャレンジしました。

合格に向けて取り組んだこと

技能検定への挑戦自体が初めてで、わからないことの連続でした。「CADソフト」の扱いや製図の知識不足という課題もありましたが、一番苦労したことは「形状認識」です。課題図から指定された部品だけをマーカーペンなどで区切り、抜き取る工程があるのですが、最初のうちは全く分からず不安になり、先輩に教えてもらいながら作業を進めました。この工程は1つでも間違えると作業のすべてが無駄になってしまうため、一つ一つの作業を丁寧に行うことでミスを減らすように心がけました。

技能検定受検を通して得たこと

技能検定を受検して得たことは、「図面の読解力」と「作業の効率化」です。課題図と課題文をもとにどんな形なのかを考えながら図面を描き、わからない時には先輩や先生に教えてもらいながら、どれだけ時間がかかっても図面を完成させるようにしていました。試験時間が3時間と長時間なので、練習中は集中力が続かず、時間内に終わらないこともありましたが、そこで、作業を細分化し、作業時間や順序を見直したところ、作業効率があがり、試験の1か月前には2時間で作業を終わらせて、見直しの時間を1時間も取れるようになりました。作業の効率化は、今後いろいろな場面で活かせると思います。

今後の目標

今後の目標は2級を取得することです。3級と比べて2級は課題図が大きいことや、幾何公差きかこうさが加わっていたり、制限時間が4時間になるなど、レベルが全くと言っていいほど異なります。3級では2Dのソフトだけを使用しましたが、2級では3Dのソフトも併用して複雑な形状にも対応したいと考えています。また、今年度出場した若年者ものづくり競技大会で入賞を逃したので、来年度は入賞を目指し、日々の練習に取り組みたいです。



学校の声：機械科 CAD関係授業・資格担当 谷本龍先生

本校は機械科、電子機械科、電気科、インテリア科、化学工業科、情報技術科の6学科8クラスを設置し、今年で創立110年目を迎える歴史と伝統ある県内最大の工業高校です。各学科の教育活動は、地域産業界との連携を図りながら学習活動に取り組み、難度の高い資格取得をはじめ、専門性を活かしたコンテスト、各種競技会での多数入賞など、その成果を発揮しています。難度の高い資格取得の一つに「技能検定」があります。機械科では機械加工職種(普通旋盤作業、フライス盤作業)、機械検査職種に加え、機械・プラント製図職種(機械製図CAD作業)へも平成23年度から挑戦し、延べ157名の3級合格者、13名の2級合格者を輩出しています。

これからも「目指せ!技能士」を掲げながら、豊かな人間性と創造性を兼ね備えた心身とも健全な工業技術者の育成を目指していきたいと思ひます。

学校名：宮城県工業高等学校

創立：大正2年2月

所在地：仙台市青葉区米ヶ袋3-2-1

HP：<https://miyagi-th.myswan.ed.jp/>

